



研究会だより

副会長挨拶



株式会社 グランテック
取締役副社長 永井 理之

この挨拶原稿の依頼を受けた約一週間前に東北地区で大規模な地震がありました。また、この北陸でも一月には短時間で降雪量が観測史上最大という大雪にみまわれました。このよう

な自然災害が立て続けに発生する昨今において我々建設業の使命とは・・・と考えさせられる日々が続いております。

この数年、建設業界は社会資本整備の方針として新しいものを建築するから古いものを維持し続けるという考え方に変わってきました。これは建設業界だけではなく世の中のトレンドですが、特に建設業界はこの考え方が強いようです。

地震等の災害情報がニュースで流れるこのようにときに、この「構造物修復工法研究会」の存在意義がますますクローズアップしてきているのではないのでしょうか。

現在はコロナ禍といわれ一年以上が過ぎました。アフターコロナ、ポストコロナの時代がくると言われ、すでに世の中は変化しています。この変化に我々企業人はどう対応していくかを

災害レポート

視察期間・・・令和三年三月四、五日
視察エリア・・・福島県、宮城県内

視察目的・・・令和三年二月三日二時過ぎに起きた福島県沖地震による被害確認と各市町村への当研究会のPR活動

視察者・・・大洋基礎工業(株)
大内、鍋嶋、米村

東北、関東エリアから離れた筆者には、マグニチュード7強と聞いただけで、甚大な被害を想像し不安に苛まれました。二月二三日当日、研究会会員の仙台市内に事務所を置く営業所の事務員さんからは、大きく揺れ自宅のタンスが二、三個倒れましたと聞きました。直後は非常に大きい地震であったと認識がございましたが、時間が経つにつれ報道各種の情報により被害は甚大ではないことは把握できました。報道やその地域の方々から現地の情報を収集しながら、頃合いを見計らって視察に行きました。福島県郡山市をスタートし須賀川市へ、国道四号線を



写真-1

北上し桑折町から宮城県に入り、蔵王町から仙台市内に入りました。翌日は仙台から常磐道で南下し、福島県相馬市の相馬港を視察後、国道六号を北上し新地町から宮城県山元町まで震度六強又は弱のエリアを中心に視察、そして各市町村へ今回の地震に限らず、今後の相談先として当研究会のPRを行って参りました。



写真-2

復旧され、大きな被害箇所に関しては、東北新幹線の復旧も然り報道の通り早々に対応されていることも確認できました。

東北地方太平洋沖地震の余震と言われているが、今回の地震では当研究会が協力できる内容はございませんでしたが、各自自治体などへのPR活動を継続したいと考えております。今回の訪問先の市町村も掲載させて頂きました。最後に研究会への問い合わせではありませんでしたが、今回の地震によって傾斜した住宅の修復の見積相談依頼が研究会会員会社には入りましたことをご報告いたします。

訪問日	市町村	部署
3/4	福島県郡山市	建設課
"	福島県郡山市	建設業協会
"	福島県須賀川市	建設課
"	福島県伊達郡桑折町	まちづくり推進課
"	宮城県刈田郡蔵王町	建設課
3/5	宮城県亘理郡山元町	建設課
"	福島県相馬郡新地町	建設課
"	福島県相馬市	建設課

技術顧問より

物だけでなく、心をも修復してこそ

プロの仕事
株式会社WASC基礎地盤研究所 高森洋

私が初めて自然災害の現場に臨んだのは一九七八年(宮城県沖地震)である。それ以来、幾多の災害現場に入り、被災建物の調査と復旧方法の設計、現場立ち合いをしてきた。この時は勤務先の会社が過去に引き渡した建物に限った行動であり、隣家が同じように被災していても手出し、口出しは出来ず、申し訳ない気持ちが出た。

二〇〇五年四月、弊社を設立した。これにより「今からは困っておられる方の相談ののつてあげたい」との気持ちで被災地に入った。しかし、いざ被災地に入ると声を掛けられず、目を合わす事すら出来なかつた。

これが一歩前進したのが二〇一一年の東日本大震災であった。この時は延べ六〇〇日ぐらいい被災地に入り、被災状況を見て回り、二人の方と親しくなれた。陸前高田市で出会った方は、津波で流れてきた瓦礫を片付けながら、敷地に鯉のぼりを立てていた。「なぜ鯉のぼりを？」と聞くと「普通にしていたら下に向けてしまい涙が出て止まらない。鯉を見上げると涙が出ない」。今でもその声に耳に残っている。もう一人は潮来市の方。庭や床下に松杭(昔、浚渫した時の仮設材)が飛び出しており、その内の三本を頂いた。お二人となぜ親しくできたかを考え、「お二人は初対面の私を少しだけ信用して頂けたから」と想像した。

二〇一六年の熊本地震では南区の液化被災地へ一八か月間、延べ四〇日(八〇人)行った。これだけ行けたのは、それだけの事があったから



普通にしていたら、下を向いてしまう下を向くと自然に涙がでてくる・・・鯉を見上げると・・・涙が出ない瓦礫の中で泳ぐ鯉のぼり柱のてっぺんには鎌(これは地元の風習) 2011年5月1日撮影、陸前高田市気仙

中日本支部 (大洋基礎工業(株)名古屋支店内)
名古屋市中川区柳森町一〇七
Tel〇五二一三〇四一八八二〇
西日本支部 (大洋基礎工業(株)大阪支店内)
大阪府高槻市五領町二〇一八
Tel〇七二一六六九一〇一三一

相談役挨拶

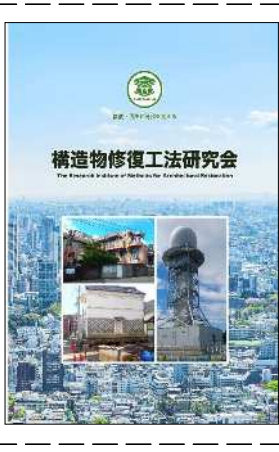
大洋基礎工業株式会社
顧問 豊住 満

二月四日(日)テレビに地震情報が流れました。福島、宮城県両県で震度M6強、マグニチュード7強、強い揺れが広域に発生した。東日本大震災の余震との事。発生から一〇年、コロナ禍の中、自然はごまかすまで過酷な一瞬天を恨む思いでいましたところ、思うほど被害が少ない様子によしと安堵しながら新聞等の情報を整理しました。何と言っても最良の朗報は死者ゼロ。この報には人間が自然に勝つたと誇らしさを覚えました。他にも東北新幹線一〇日間の復旧工事で運転再開予定、連休の主因は電柱の倒壊。耐電補強されていた電柱は耐え未補強電柱が倒壊したとの報にも、補強すれば震度6にも耐えられるという自信のようなものを感じることができました。これから先、時代は新築からメンテナンスに進むでしょう。メンテナンス、いづれも狭小地、低空頭施工が求められます。当工法協会の充実が時代、社会のニーズ、メンバー各位と頑張りねばと思わせた福島、宮城県震となりました。

お知らせ

・理事会 五月中旬予定
・定例総会 六月上旬予定

当研究会カタログ・封筒等希望あれば、ご一報ください。また、狭小地・低空頭の現場の相談も承ります。



入っていく順番である。

本研究会員がきつちりした修復工事を行うのは当たり前であり、それだけでなく痛んだ被災者の心をも修復でき、「生活再建」の気持ちを起こせる工事であって欲しいと願う。

「被災したが、良い人に出会った」と。

現場レポート

現場概要

工期期間：令和三年二月一日～三月十七日
 工事件名：〇様邸 L型擁壁修復工事
 工事場所：兵庫県姫路市内
 工事内容：修復対象擁壁 L一三五〇、
 一五五〇

修復区間長 L二二・八m
 最大沈下量 一三三mm
 アンダーピニング工法
 φ一三九・八mm 三m×三三本
 Ra II 三六KN/本



沈下原因は、新規盛土と擁壁設置による荷重

増加により直下にある旧地盤が圧密沈下したからであります。掘削時にその旧地盤が腐植土であることがわかり、原因が目視で確認できました。擁壁の修復は、底盤下地盤の掘削と擁壁土被りの除去に伴い、擁壁の滑動にも十分に留意しなければなりません。反力を必要とする鋼管圧入後、直ちに主動土圧軽減のため背面土の除去を行いました。更に沈下のみならず平面的なズレも生じていたためジャッキで水平方向の修正、エラス部に生じているズレや開きの対応と、見た目は高さの低いだけの擁壁ですが、その修復には、技術を要することをご理解頂けると幸いです。元請様の希望で見学会等を開けませんでした、以後機会を設けたいと思っております。



会員紹介②

株式会社 ケンシンテクノ

代表取締役 渡邊 信吾
 住所：〒七九〇〇九一四
 愛媛県松山市三町三丁目一五一二七
 TEL：〇八九一九七六六四四四
 FAX：〇八九一九六〇一七〇八
 URL：https://kenshin-k.com/
 営業品目：地盤調査・地盤改良・各種杭工事・沈下修復・土木工事・環境調査・他

当社は四国・愛媛県松山市で地盤対策を生業として現在に至ります。創業当時はまだ地盤調査も大手ハウスメーカーが行っていただけで、地場の工務店や設計事務所にも営業に行っても返ってくる言葉は『地盤？何それ』とか、『地盤の硬さは踏んだらわかるわ』とか言われるような状況でした。昨今みだりに紳士の多い業界ではなく、比較的気の多い人が多かったのが、見たこともない仕事に『そんな簡単な作業で強度がわかるのか』等と言われることに力チンときて、よく現場でもめていました。(笑)

現在のような猛暑ではないが、夏の現場では元請立会の元、手回して地盤調査を行うわけですが、数値を記録されているため休憩もできず、吐きそうになりながら、作業を行った事が昨日のように思い出されます。機械が普及し、本当にありがたかったですね。機械が無ければ、今の業界は無かったのでは無いかと思うくらい過酷でした。地盤調査は沈下による住宅被害を無くす事を目的に普及してきたのですが、残念な事に地盤沈下の被害は現在でも起きています。おかげさまで当社は、創業以来一棟の被害も出していないです。が過剰設計は無かったのかと自問自答しています。地盤に関わり、沈下修復の依頼もあります。創業時より曳家も行うコンサルタント会社と提携していた事と、友人が曳家会社を営んでいた事から、ノウハウを習得させて頂きました。現在では曳家工事はかなり減少しましたが、沈下の修復依頼は建物に限らずまだまだ多くあります。各社単独で業務を行う事が多い修復工事ですが、このような研究会が発足し情報の共有・技術の進歩につながる事は大変有意義な事ではないかと思えます。全国の当研究会の方々より、色々と勉強をさせて頂き、皆様と共に発展していきたいよう頑張ります。最後にありがとうございました、社員共々よろしくお願ひします。

会員紹介

研究会の目的の一つであります会員同志での協業によるシナジー効果を目指し、紙面に順次会員の紹介をさせて頂きます。気になる技術や相談がありましたら、各協会員へお問い合わせ願います。

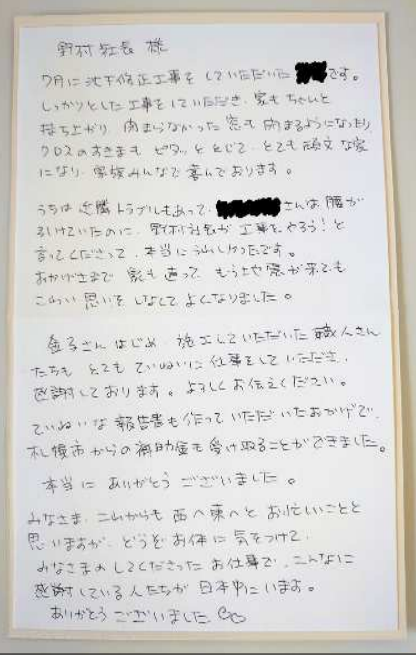
会員紹介①

株式会社アップルハウス

代表取締役 野村 雅也

当社は、建物沈下修正工事と橋梁等の保守点検業務を事業の柱として、「安心して暮らせる日本」の縁の下の力持ち(The underdog)でありたいと思ひ、補修・補強関連の事業を行っている会社です。当社は年間五〇件ほどの建物沈下修復工事を行っており、戸建て住宅から工場や仏閣など、得意な工法としては、「鋼管杭圧入工法」、「耐圧版工法」、「土台揚げ工法」となります。事故や施工不良により建物が沈下してしまいこの工事を行うこともありますが、震災によって建物が沈下してしまう

ことも珍しくありません。被災地で行う沈下修復工事は、余震による影響など、普段以上に気を遣う工事となりますが、傾いた家が直って安心されるオーナー様達の笑顔を見させて頂く事で、我々も達成感ややりがいを感じております。二〇一八年に起きた、北海道胆振東部地震によって建物被害に合われたお客様から工事の依頼を掲載させて頂きました。我々の拠点は名古屋にありますが、営業エリアは北海道から沖縄まで、日本中どこへでも、としており、相談を頂ければどこまでも伺いに行きますので、是非お声掛け下さい。橋梁の保守点検業務に起因しては、二〇一五年から本格的に事業として取り入れ、今では年間八〇〇橋程度の劣化診断を行っております。橋やトンネルなどのインフラ設備は、今後再建築や新設が主流ではなく、長期寿命化を目的とする補修及び補強事業が主流となります。この構造物修復工法研究会の皆様と共に、新しい工法や新しい技術を生み出すことが出来たら、と期待に胸を膨らませております。今年もコロナ禍による影響や異常気象と呼ばれる気候の変化によって、人々の物の見方、価値観が大きく変わって来ておりますが、変わらない平穏な日々を皆様へ提供出来るよう、変化に対応し、進化し続ける建設事業社でありたいと思っております。責任感と情熱を



株式会社 KGフローテクノ TEL 03-6402-5408	西日本支部 株式会社 ケンシンテクノ TEL 089-976-6444	株式会社 グランテック TEL 0776-91-6111	東日本支部 株式会社 江機 TEL 03-3857-9870
株式会社 三興商会 TEL 06-6538-3671	株式会社 三東工業社 TEL 077-553-1111	株式会社 サン・エンジニア TEL 0776-83-1802	有限会社 K工業 TEL 024-563-7745
三和機材株式会社 TEL 03-6891-3456	太洋基礎工業株式会社 大阪支店 TEL 072-669-0126	勢州建設株式会社 TEL 059-382-5577	太洋基礎工業株式会社 東京支店 TEL 03-5753-1291
ソーダニッカ株式会社 TEL 052-561-9421	大栄テックス株式会社 TEL 0747-32-8300	株式会社 タケモト TEL 0562-34-3884	株式会社 テノックス TEL 03-3455-7792
長野油機株式会社 TEL 045-934-2555	株式会社 南陽建設 TEL 0967-67-0024	有限会社 堀建設工業 TEL 0766-25-3319	横浜ライト工業 株式会社 TEL 045-355-5500
日邦電機株式会社 TEL 06-6452-1118	株式会社 ムラーカム TEL 0567-55-3111	株式会社 山下 TEL 0596-65-0101	中日本支部 株式会社 アップルハウス TEL 052-726-5246
	賛助会員 株式会社 アイテムボックス TEL 052-798-9901		